

奥秩父の『伊豆ガ岳』は名前のとおり頂上から伊豆半島が見えるということで関東では有数の登山人気スポットです。

私も仲間入りしたくて、夜行列車で西武線正丸駅に着いたのは午前8時ごろでした。車中では小雨だった雨が正丸駅では本降りになっていました。そのまま引き返す人、「どうしようか」と相談してる人、雨具をつけてるのは私だけになってきました。関西から一晩かけて来たのに「雨に負けるものか」と闘志がみなぎってきました。改札を出たのは私だけです。「行けるところまで行ってみよう」と考え、もう足は登山口に向かっていました。初めて行く山は緊張するもので、不安をかき消すように私の足は「前に行くしかない」と登山道をわき目も振らずに進んで行きます。独り占めの山に心が踊ってくるようで、足取り軽く2時間ほど歩いて尾根に入ったところで小雨になったのに気がつきました。一面すっかり霧もわいていたのです。もう頂上は近

いはずなのに、自分の歩いてる方向が全く分からなくなってしまう。ここまで登ってきたのに引き返すなら今のうち、「分岐に戻ればいい」と自分に言い聞かせて、頂上方向と思われる方向をにらんでいました。

「ガサツ」と音がしたのでびっくりして振り返ると霧の中に黄色いレインコートの青年が登って来たのです。私は神にも会えたように、恐る恐る「伊豆ガ岳の頂上はこの道ですか」と聞くと、「僕も行きますから一緒に行きましょう」と、何と運がいいのでしょうか。

彼は東京の人で、1年ぶりの登山だったようです。私の速度と同じぐらいで歩きやすく身も心も軽くなっていくのが分かります。30分で着いた頂上では雨もやみ霧も消えています。頂上では数本の桜の花が満開でした。確かに伊豆半島の眺めは素晴らしいものです。「少し早いけど昼食にしませんか」と言われて、お腹が急に空いてきました。桜の木の下で若い男性と食事をするうれしさに顔も心も

さくら色に染まってくようです。熱いコーヒは冷えた体に彼の性格がしみわたりました。楽しい食後に「これから武川岳に向かって歩きませんか、正丸駅の2つ西の芦ガ久保駅に4時には着きますよ」と言います。Uターンを予定している私には夢のような話でした。「何と親切な青年なんだろう」と私はルンルン気分になり、靴の紐を締め直しました。

4時過ぎに芦ガ久保駅に着いた時には太陽が出て彼の顔を初めて見る事ができました。今度は彼の顔がさくら色のように見えました。「ここでお別れします。ありがとうございます。山でお会いできること楽しみにしています」。「僕も退屈しないで登れました。ありがとうございます。ございました。気をつけてお帰りください」と去って行く彼の後ろ姿に私は深々と頭を下げていました。『日本百名山』の著者の「百の頂上には百の喜びあり」の言葉が頭を横切りました。そのとおりに素晴らしいものでした。